

## 検討会における委員の意見

### ●これまでの一志病院の取組について

項目	意見
県立病院改革の基本方針について	<p>基本方針における「診療圏に広域性があるとは認められない」ことについては、医療だけに関した狭い視野で言えばそう言えるが、一志病院では教育や研究にも取り組んでいる。一志病院で育った医師が県内でどういう活動をしているのか検証すれば広域性があるということが言えると思う。研究の方でも、英語で論文を書いたり海外で学会発表をするなど、世界に向けて発信している。そういった医療以外の面にも着目すれば非常に広域性があると言える。</p>
一志病院の役割について	<p>救急医療</p> <p>救急患者の住所地によっては一志病院への搬送を拒まれるケースはあるが、一志病院の方で断ることは基本的にはない。</p>
	<p>例えば、一志病院に内科の専門医を配置すれば心筋梗塞も診られるようになり、三重中央病院への救急搬送の件数も変わり、一志病院の性格も変わると思われる。</p> <p>しかしながら、人口が減っていく中で、このようなことを考えるのであれば、場所とか運営形態とか抜本的に見直す必要がある。</p>
	<p>医療機関との連携</p> <p>専門的な医療を受けるために三重中央病院等で毎回受診しなくてもいいように、一志病院と連携を取ることで、患者は近場の一志病院に通院することが可能である。</p>
	<p>在宅医療</p> <p>訪問診療、訪問看護、訪問薬剤指導、訪問栄養指導をしていただき、在宅を進めるたくさんの力をいただいている。細かなところでも連携を密に取れているのが美杉の現状である。</p>
<p>看護師の育成</p> <p>一志病院では三重大学や県立看護大学の実習生を受け入れている。現在、特に訪問看護師の質の向上が求められている中、地域における実践的な教育を通して看護師の質を上げていくことで、地域の人たちが安心して暮らしていけることが望ましいと思う。</p>	

一志病院の役割について	総合診療医の育成	総合診療医の育成と学問としての総合診療としても非常に大きな位置付けを占めた病院である。
		一志病院の総合診療の教育・研修では、在宅医療、地域包括ケア（多職種連携）、認知症対策、救急医療について教えている。
		総合診療医は、在宅医療や地域包括ケアの回復期の病床を担当できる数少ないプレーヤーである。
		総合診療専門医の認定機関である日本専門医機構が定める「総合診療研修Ⅰ」（診療所・小病院（一志病院を含む））の県内の研修施設の対象となる病院は、現在一志病院に限られている状況であり、一志病院の定員が県全体の定員となっている。
		県立一志病院から巣立っていった研修医のうち35名が家庭医として現在県内で勤務している。
	その他	高齢の方はもとより、子育ての関係でも協力をいただいている。例えば、発達障害の勉強会へ医師が参加し、色々と教えていただき、事態の悪化を食い止めるための力添えとなっている。
		一志病院は、白山・美杉地域にとって非常に大きな存在であり、無くてはならない病院である。一志病院が高齢者に対して優しく接していただいていることは、地域にとってありがたい。
		県立病院改革以降、病院としての改革を進められ、住民が安心して暮らせる地域作りにとっても貢献していただいている。
		一志病院は地域に密接に入り込んでいる。美杉・白山の医療は一志病院が無ければ今後も成り立たないと思っている。県のモデル的な地域医療のあり方、医療・介護分野も含めて、あの地域で素晴らしいものができることを願っている。

●一志病院のあるべき姿について

項 目	意 見
家庭医（総合診療医）を中心とした地域医療の取組	<p>過疎地においては内科だけで安心して生活できるわけではない。公立病院であっても、それぞれの専門医をたくさん配属することは、コスト増につながり経営を圧迫すると思われるため、総合診療・家庭医療というものが、大きな役割を担い、コスト削減にもつなげ、これからの過疎地の医療を支えていく中では、とても重要なポジションではないかを感じる。</p> <p>津市白山・美杉地域において入院施設を持った唯一の病院としてプライマリ・ケアを継続して提供する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津市西部地域の高齢化が急速に進むなかで、病院への通院が困難な患者が増加し、在宅療養支援の必要性が高まっていることから、訪問診療、訪問看護などに積極的に取り組む。</li> <li>・地域包括ケアシステムの構築が求められているなか、保健・医療・福祉の多職種連携の取組を、医療機関の立場から積極的に進める。</li> <li>・津市西部地域における一次救急医療に貢献する。</li> </ul>
三重県の地域医療を確保するための広域的な取組	<p>三重県の地域医療やへき地医療の担い手となる家庭医（総合診療医）を三重大学と連携し育成する。また、地域包括ケアシステムを構築するために、非常に重要な地域看護、訪問看護を実践できる看護師を育成する。</p> <p>育成した家庭医（総合診療医）や看護師を県内の医療過疎地域へ積極的に派遣する。</p> <p>現在までに構築してきた教育や研究体制をさらに発展させ、プライマリ・ケアに関する教育や研究を担う。</p> <p>県が家庭医を育成し、育成した家庭医を県内の医師不足地域へ供給するシステムを構築するなど、県の医師派遣確保対策として、更なる県立一志病院の充実に努める</p>